

みのまわり

④



着物が好きな私。
先日、自分の着物姿を見てビックリ。
お尻のラインがくっきり見えていたのだ。
主人に確認しても、「そうやで」と、当たり前のような返事。
お尻のラインがくっきりって…恥ずかしいやらなんやら。

その後、街で見かける浴衣姿の人々を観察してみても、やはり同じ。

お尻のラインがくっきり見えている。

一枚の布を身体に纏う着物。

「お腹に帯を巻くから、ポッコリお腹が隠れて、体型をごまかせる」という話をよく聞いてきたが、お腹はごまかせても、お尻はそうはいかないようである。

しかし、私が観察した限り、着物や浴衣を着た女性のお尻は、とても女性的で美しく、言葉では言い表せない「日本人らしさ」を醸し出しているように思う。

まるでそこに「日本女性の魅力」があるかのように。

形の決まった洋服を身体に合わせるのではなく、衣服を身体に合わせていく。

取り繕うことなく、ありのままの姿を見せる、ありのままの自分になることで、「失いかけている何か」を取り戻すような感覚になる。

女性も働くことが多くなったこの時代。

昔のような「女性らしさ」を取り戻す一つのきっかけが着物なのかもしれない。

誰かに着物姿を魅力的と思ってもらうだけではなく、自分自身も、自分の新しい魅力を再発見し、心を弾ませたい。